

F/T09

フェスティバル/トーキョー

PRESS RELEASE

『オセロー』

演出：イ・ユンテク(韓国)

2月27日(金)～3月1日(日)

於：東京芸術劇場 中ホール



©LEE Do-hee

シェイクスピア『オセロー』

×

日本の夢幻能形式

×

韓国シャーマニズム。

韓国カリスマ演出家が挑む壮大で画期的な試み、
ついに日本凱旋公演！

お問合せ：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

〒170-0001 東京都豊島区西巢鴨 4-9-1 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内 TEL 03-5961-5202/FAX 03-5961-5207

制作担当：植松 y-uematsu@anj.or.jp F/T 広報担当：及位(のぞき)、ハッセル toiwase@anj.or.jp

／ 作品について

黒い肌の傭兵将軍と、ヴェネツィア貴族の娘の、あまりにも純粋な恋。

愛情こそが肌の色と年齢と宗教の壁を越える…この完全すぎるカップルが、猜疑と嫉妬の修羅場へと転落してゆくさまを描く『オセロー』は、シェイクスピア4大悲劇のうちで最もダイレクトな「愛の物語」である。

この美しくも残酷な戯曲を、平川祐弘は、オセローに殺された妻デズデモーナの霊が思い出を生き続けているという設定で、能の台本に書き直した。それによって生まれたのは、目をそむけたくなる嫉妬に観客に突きつけてくる原作とは趣を一変させた幽玄な世界。不貞を疑われ、その誤解からオセローに首を絞められたデズデモーナが、しかし、その殺しの瞬間にこそ最もオセローと近づいていたという、この男と女のパラドクス。その一瞬こそが人生で最も大切な時間となり、デズデモーナの霊はその一瞬に支えられて存在し続けているのだ。

愛情というものを、その破綻の側からとらえ返したときに立ち現れる希望。愛情への希望がおしなべて冷笑される時代に、こうして希望はよみがえり、見るものを襲う。

初演は、ク・ナウカ シアターカンパニー(演出:宮城聰)により、東京国立博物館庭園の野外ステージにて上演された。今回は、韓国現代演劇界を代表するカリスマ演出家、イ・ユンテクの演出のもと、ク・ナウカ シアターカンパニーの初演時の中心俳優とイ・ユンテクの劇団(演劇団コリペ)の主要俳優という日韓俳優のコラボレーションにより、シェイクスピアの『オセロー』に新たな生命を吹き込む意欲作となる。宮城が“日本の演劇の強み”を追求してゆく中でたどりついた、夢幻能形式による『オセロー』という題材を、イ・ユンテクが、韓国のシャーマニズム(招魂クツ)を取り入れた新演出で上演するという、アジアにおけるシェイクスピア上演の一つの指針を示す、壮大で画期的な試みとなる。

／ 韓国シャーマニズム

韓国ではシャーマニズムが古代から民間信仰として深く根づいている。これは一つの共同体が豊作祈願や雨乞いなど、集団で天に祭祀を捧げる祭天儀式と密接な関連がある。

韓国のシャーマニズムは「ムーダン(巫堂)」を仲介にして人間の問題を解決しようとするところにその特性がある。このような特性は、いまでも韓国の随所に残っているさまざまな形態の「クツ(巫祭)」から見る事が出来る。

クツはムーダンが靈魂に歌や踊りとともに供物を捧げ、人間世界の幸運を祈る儀式を意味する。また、クツの形態は各地域ごとに若干の差があり、また種類と目的によって巫樂の拍子がいろいろと組立てられる。

本作『オセロー』の中では、作品の随所に、このクツで用いられる歌と踊りが日本語の歌詞に訳され演じられる。

／ 作品創作・上演の過程

2008年	9月	イ・ユンテク氏来日。東京にて稽古。
	10月7日、8日	ソウル初演@アジア舞台芸術祭(世宗文化会館)
2009年	2月	韓国にて稽古開始
	2月27日~3月1日	東京公演@フェスティバルノトーキョー

／ 演出家 イ・ユンテク氏インタビュー

—今作の見どころやチャレンジポイントについてお聞かせ下さい。

ユンテク;この作品のハイライトは、夏目漱石の句です。漱石先生がオセローについて詠まれた句です。その句をまた、平川先生が引用され、今回それを私が演出させていただきます。

私はこの作品に韓国のシャーマニズムを盛り込み、「魂との対話」という形に処理しました。日本の観客にとっては、そこが新鮮だろうと思います。

宮城さんが最初に、日本の伝統芸能である能の様式とその表現を取り入れて、『夢幻能オセロー』というものを演出されました。それを私が今回再演出することになり、私は韓国の「クツ」という祭劇の形式を入れることにしました。日本の能は、もともと死んだ人や神、この世に存在しない幽玄の世界のもの、いわば夢ともいえるようなものだと思います。また、韓国の伝統であるシャーマニズム、これは巫女のことで、この巫女が死者と対話をする、魂との対話ですね。能の形式と、このシャーマニズムの「クツ」の形式を出会わせることによって、文化層の主義的なものが出会うのです。

ただ、この手法というのは大変危険な作業になるだろうと思います。なぜならば、シェイクスピア劇というものに、日本の伝統的なものを掛け合わせている芝居、そこにさらに韓国の伝統を加えたら、ただの見世物に転落してしまうのではないか、そういった危険性があるということです。ですが、この作業は私にとってはかえって楽しい作業です。なぜならば、そもそも西洋演劇の源流にはデュオニュソス祭というのがありますけれども、これは日本の祭りとも、そして韓国のクツ、これは祭劇ですから、そういったものに通じると思うからです。

つまり、世界は一つだということです。全て祭りというものの感じ方というのは同じだと思うからです。ですから、シェイクスピアであろうと日本の伝統であろうとクツであろうとシャーマニズムであろうと、源流は全て同じだと、意思疎通のできる道というものはあるはずだと。その道を探す作業、これは大変難しいですが、それでも楽しい作業だと思っています。

—ソウルと東京の二つの会場で公演することへの意義や抱負について、お聞かせ下さい。

ユンテク;2008年の8月に、私は韓国で『スンシン』という音楽劇を終えてきたばかりですが、これは、昔の日本と韓国の戦争を取り扱っています。当然日本の將軍などが出てきますし、韓国の將軍なども出てきます。そこに私は、日本の鬼太鼓座の方々をお呼びして、一緒に太鼓を叩いていただいたんです。でも実は、この話を自分が上演、演出をするにあたって心配をしていました。なぜならこれは戦争の話であり、また、国家間の葛藤について描かなければならない作品だからです。ですが実際公演が始まってみると、鬼太鼓座の皆さんがふんどし一丁で叩く太鼓は、大変戦闘的なのですが、韓国の観客は歓声を上げて立ち、拍手をしました。つまり、今はそういう時代です。

日本と韓国の伝統というものが、共存する作品、そういうものを創り得るということです。

私は今回の作品でも、文化は美しい、国家、主義を超えて文化というものは共存するというをぜひお見せしたいと思っています。それが文化の力である、と。それこそがこの作品の意義です。

(2008年9月30日 F/T事務局取材)

/ アーティスト・プロフィール



演出 イ・ユンテク

Lee Youn-taek

詩人、劇作家、演出家

1986年、演劇団コリペを旗揚げ。批評、劇作、映画やテレビドラマ脚本、コラムなどの豊富なキャリアとともに、演出、俳優訓練の第一人者として韓国演劇界を代表する存在となる。1994年、自らの俳優訓練、演劇論の実践の場として、ウリ劇研究所を設立。ドイツや日本での演技指導、韓国国立劇場国立劇団の芸術監督もつとめた。1999年以降、演劇団コリペは約50余名の劇団員を擁し、韓国前衛演劇界を牽引する存在となっている。

現在、演劇団コリペ芸術監督、東国大学教授。

韓国評論家協会最優秀芸術家賞(1989年)以来、ソウル演劇祭大賞(2001年)、大韓民国文化芸術賞(2002年)など受賞多数。

代表作：『市民K』『サンシッキム』『オグー死の形式』『パボカクシー愛の形式』『ハムレット』『問題的人間、燕山』『真如極楽』『田舎文士・曹南冥』『オモニ』『リア王』『群盗』『肝っ玉おっ母とその子どもたち』『原典物語』

/ 出演者プロフィール



美加理（デスデモーナ）

高校在学中にパルコプロデュース、寺山修司作・演出『青ひげ公の城』で舞台デビュー。ク・ナウカ シアターカンパニーに所属し、宮城聰演出の『サロメ』『天守物語』『王女メデア』『トリスタンとイゾルデ』『マハーバーラタ』などに出演。“想像力を喚起する身体”“パフォーマーとしての圧倒的な集中力”と評される存在感とパフォーマンスは国内外で評価を得ている。



阿部一徳（オセロー）

1990年ク・ナウカの旗揚げに参加。ク・ナウカ国内外の作品すべてに出演。また他劇団への客演も多数。プロだけでなく一般を対象にしたワークショップを国内外で実施し、また1998年からスタートした一人芝居シリーズも好評を博している。代表作に『王女メデア(メデア／語り)』『マハーバーラタ(語り)』『天守物語(富姫／語り)』など。肉体を駆使した台詞術は、国内外で高い評価を得ている。桜美林大学非常勤講師。文化学院特殊授業講師。



大高浩一（イアーゴ）

1995年よりク・ナウカ シアターカンパニーに参加、以後ク・ナウカ作品のほとんどに出演。その他客演多数。カンパニーでの主な出演作に『天守物語』『欲望という名の電車』『王女メデア』『トリスタンとイゾルデ』他。



キム・ミスク（巡礼）

演劇団コリペを代表する俳優の一人。主な出演作に『オグー—死の儀式』『ハムレット』『肝っ玉おっ母とその子どもたち』『ベルリンのケットン』『原典物語』、など。2007年、『肝っ玉おっ母とその子どもたち』の演技で東亜演劇賞女優演技賞を受賞。



イ・スンホン（男）

演劇団コリペを代表する俳優の一人。おもな出演作に『オグー—死の形式』『ハムレット』『真如極楽』『田舎文士・曹南冥』『パボカクシ』『肝っ玉おっ母とその子どもたち』『原典物語』など。2002年に東亜演劇賞演技賞、2006年にソウル演劇祭男優演技賞を受賞。

/ キャスト/スタッフ

演出	イ・ユンテク LEE Youn-Taek
企画原案	宮城聡 Satoshi Miyagi
原作	ウィリアム・シェイクスピア William Shakespeare
謡曲台本	平川祐弘 Sukehiro Hirakawa
間狂言翻訳	小田島雄志 Yushi Odashima
音楽	鬼太鼓座 Za Ondekoza ウォン・イル WON II 加藤訓子 Kuniko Kato
振付	イ・スンホン LEE Seung-Heon
照明	チョー・インゴン CHO In-Kon 大迫浩二 Koji Osako
衣装	キム・ミスク KIM Mi-Sook
ヘア・メイク	梶田キョウコ Kyoko Kajita
出演	美加理 (ク・ナウカ シアターカンパニー) Micari (Ku Na' uka Theatre Company) 阿部一徳 (ク・ナウカ シアターカンパニー) Kazunori Abe (Ku Na' uka Theatre Company) 大高浩一 (ク・ナウカ シアターカンパニー) Koichi Ohtaka (Ku Na' uka Theatre Company) キム・ミスク (演劇団コリペ) KIM Mi-Sook (Street Theatre Troupe) イ・スンホン (演劇団コリペ) LEE Seung-Heon (Street Theatre Troupe) 吉植荘一郎 (ク・ナウカ シアターカンパニー) Soichiro Yoshiue (Ku Na' uka Theatre Company) 野原有未 (ク・ナウカ シアターカンパニー) Yuumi Nohara (Ku Na' uka Theatre Company) 片岡佐知子 (ク・ナウカ シアターカンパニー) Sachiko Kataoka (Ku Na' uka Theatre Company) 関根淳子 (ク・ナウカ シアターカンパニー) Junko Sekine (Ku Na' uka Theatre Company) 桜内結う (ク・ナウカ シアターカンパニー) Yu Sakurauchi (Ku Na' uka Theatre Company) 大道無門優也 (ク・ナウカ シアターカンパニー) Yuya Daidoumumon (Ku Na' uka Theatre Company) 杉山夏美 (ク・ナウカ シアターカンパニー) Natsumi Sugiyama (Ku Na' uka Theatre Company)
制作	西尾祥子(システム) Sachiko Nishio (Sistema)
主催・製作	フェスティバル/トーキョー Festival/Tokyo
後援	駐日韓国大使館 韓国文化院

公演/チケット情報

会場	東京芸術劇場中ホール
チケット料金	全席指定 一般 S席 4,500円、A席 3,500円、 学生 3,000円(要学生証提示) / 高校生以下 1,000円
お取扱い	フェスティバル/トーキョー(HPのみ) ふれいす(電話のみ) 電子チケットぴあ(Pコード:391-400)、イープラス 東京芸術劇場チケットサービス 03-5985-1707

公演スケジュール

2/27 Fri	2/28 sat	3/1 sun
19:00	17:00	14:00

F/Tパフォーマンス チケット 2008年12月18日(木)前売開始 ※F/T参加作品は対象外

■チケット取扱

フェスティバル/トーキョー(HPのみ) <http://festival-tokyo.jp>

ふれいす(電話のみ) 03-5468-8113(平日 11:00-18:00)

電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード予約) <http://pia.jp/t> ※『サンシャイン63』と『演劇/大学09春』は対象外

イープラス <http://eplus.jp> ※『サンシャイン63』と『演劇/大学09春』は対象外

- ・指定席の場合、開演時間に遅れたお客様はご指定のお席にお座りになれない場合がございます。
- ・未就学児童のご入場はお断りさせていただきます。
- ・受付開始及び当日券の販売は開演1時間前、開場は30分前からとなります。
- ・チケットの払戻、観劇日の変更はできません。
- ・チケット料金には消費税が含まれます。

F/Tパフォーマンスを、選んで観る。全部観る。誘って観る。学生も観る。

フェスティバル/トーキョーならではのお得なチケットでお楽しみください。 ※フェスティバル/トーキョー・ふれいすのみ取扱い

◇F/T回数券 選んで観る! ※お好きな演目を選んでご覧いただけます。(『サンシャイン63』は対象外)

3演目 ¥10,000 (¥3,333/枚)、5演目 ¥15,000 (¥3,000/枚)

◇F/Tパス(13演目)全部観る! ※全ての演目をご覧になれます。(『サンシャイン63』は対象外)

¥30,000(¥2,300/枚)

※F/T回数券、F/Tパス(13演目)のお取扱いについて

- ・2月13日(金)18:00まで販売(限定枚数)
- ・観劇演目・日時が未定でも購入できます。
- ・購入後は演目・日時のご予約を受付けます。
- ・予約なしでも当日ご入場出来ます。但し、満席時にご入場頂けない場合がございます。
- ・確実にご覧頂くためには演目・日時予約をお勧めいたします。
- ・回数券・パスはご本人様のみ有効です。

◇ペアチケット 誘って観る!

チケット2枚分の料金から10%OFFでご購入頂けます。(例/¥4,500×2枚=¥9,000→¥8,100)

※2名同日時観劇のみお受けいたします。 ※当日券のご用意はございません。 ※『演劇/大学09春』は対象外です。

◇学生料金 学生も観る!

学生 全演目 ¥3,000(要学生証提示) 高校生以下 全演目¥1,000

※東京芸術劇場中ホール公演はS席 ※当日でもご購入できます。

◇Port Bセット券(『雲。家。』『サンシャイン63』) ¥6,400 (¥3,200/枚)

※ふれいすのみ取扱 ※2月13日(金)18:00まで販売(限定枚数)

3演目	¥10,000 (¥3,333/枚)	F/Tパス	¥30,000 (¥2,300/枚)
5演目	¥15,000 (¥3,000/枚)	ペアチケット	10% OFF

/ フェスティバル/トーキョー09 春 開催概要

名称	フェスティバル/トーキョー09 春 Festival/Tokyo 09 spring
会期・会場	2009年2月26日(木)～3月29日(日) 東京芸術劇場 中ホール 小ホール1・2 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) にしすがも創造舎
プログラム	F/T パフォーマンス 14 演目 F/T 参加作品 5 演目 F/T プロジェクト(シンポジウム/ステーション/クルー)
主催	東京都 財団法人東京都歴史文化財団 フェスティバル/トーキョー実行委員会 豊島区、財団法人としま未来文化財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン
共催	社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター
事業共催	国際交流基金
協賛	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂
助成	財団法人アサヒビール芸術文化財団
後援	外務省、社団法人日本芸能実演家団体協議会、社団法人日本劇団協議会
協力	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、 豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、社団法人豊島法人会
宣伝協力	株式会社ポスターハリス・カンパニー
平成20年度文化庁国際芸術交流支援事業	
提携事業	東京芸術見本市2009

/ 写真/クレジット一覧

『オセロー』

ソウル初演(2008年10月7日 世宗文化会館)より



©LEE Do-hee



©LEE Do-hee



©LEE Do-hee



©LEE Do-hee



©LEE Do-hee

アーティストポートレート

演出:イ・ユンテク LEE Youn-Taek



出演:

美加理 Micari



©内田琢麻 Takuma Uchida

阿部一徳 Kazunori Abe



©内田琢麻 Takuma Uchida

大高浩一 Koichi Ohtaka



©内田琢麻 Takuma Uchida

キム・ミスク KIM Mi-Sook



イ・スンホン LEE Seung-Heon

